(No.　　)

おし食べるぞ

永松　海

三十六個目の星が上がってきたときだ。

楽しみにしていたお肉をやっと食べられる。

ご飯を頼んでいる母の声がきこえる。

トイレにいる間ご飯はもうできていた。

もどるとおいしそうなお肉がまっていた。

肉をかじったとき口の中が遊園地みたいになった。

カンヅ夫のみかんみたいに柔らかかった。

みんな無言だった。

幸せな夜がくれていった。

9 9を生かして短い言葉で

詩を書いてみよう。

【海外子女教育振興財団】

20×20